

## 第 5 分科会（個性化・特色化教育） 3

## 「地域産業の担い手育成プロジェクト」

## 1 はじめに

本校は、大正 9 年に熊谷商業学校として設立され、昭和 32 年埼玉県立熊谷商工高等学校となる。昭和 41 年分離独立し、本年で 44 周年を迎える歴史と伝統を誇る工業の専門高校である。また、埼玉県北部を中心に 14,000 名近くの卒業生は、産業界を中心に様々な分野で活躍している。現在、建築科（1 クラス）・土木科（1 クラス）・電気科（1 クラス）・機械科（2 クラス）・情報技術科（2 クラス）の 1 学年、7 クラス規模の専門高校である。

## 1 沿革



- ・ 大正 9 年 熊谷商業学校を設立する。
- ・ 昭和 32 年 埼玉県立熊谷商工高等学校と改める。定員、商業科 1050 名、電気科 120 名、建設科 120 名、計 1290 名となる。
- ・ 昭和 38 年 建設科を募集停止し建築科土木科を新設する。商業科 1200 名、電気科 240 名建築科 120 名土木科 120 名機械科 240 名 計 1920 名となる。
- ・ 昭和 41 年 埼玉県立熊谷工業高等学校として分離独立する。
- ・ 昭和 48 年 情報技術科を新設する。建築科 120 名、土木科 120 名、電気科 240 名、機械科 240 名、情報技術科 120 名、計 840 名となる。
- ・ 平成 3 年 第 70 回全国高等学校ラグビーフットボール大会に於いて優勝する。
- ・ 平成 10 年 3 年次より、大学進学希望者を選考し、基礎工学コースを編成する。
- ・ 平成 13 年 新実習棟落成記念式典挙行。
- ・ 平成 15 年 インターンシップ（必修）を実施する。
- ・ 平成 18 年 分離独立 40 周年記念式典挙行。
- ・ 平成 18 年 熊工版「デュアルシステム（希望者）」を実施する。
- ・ 平成 19 年～21 年 文部科学省委託「地域産業の担い手育成プロジェクト」事業を実施する。

2 目指す学校像 「地域の信頼と期待に応える魅力ある工業高校」

(本年度の目標・方策)

- (1) 確かな学力を身につけ、地域の期待に応えるスペシャリストを育成する。
- (2) 一人一人の希望を実現する進路指導を推進する。
- (3) 心豊かでたくましく、規律ある生徒を育成する。
- (4) 地域連携を積極的に展開し、開かれた学校づくりを推進する。

3 進路状況 (21年度)

	就職(47%)			進学(53%)				未定 (0%)	合計
	内定者	未定	小計	大学	専門	未定	小計		
男	113	0	113	66	57	0	122	0	240
女	1	0	1	4	2	0	6	0	7
計	114	0	114	70	59	0	129	0	250

4 求人状況の比較

		2008		2009		前年度比	
		会社数	求人票数	会社数	求人票数	会社数	求人票数
	農・林・漁・鉱業	2	2	0	0	▲ 2	▲ 2
E1	建設業 総合工事	94	127	74	97	▲ 20	▲ 30
E2	建設業 設備工事	93	121	66	81	▲ 27	▲ 40
F1	製造業 食品・飲料	40	49	28	36	▲ 12	▲ 13
F2	〃 木材・家具・パルプ	13	17	20	23	7	6
F3	〃 印刷・化学・石油・プラスチック・ゴム	69	92	22	25	▲ 47	▲ 67
F4	〃 窯業・鉄・非鉄金属・金属	49	61	28	36	▲ 21	▲ 25
F5	〃 一般機械・電気機械器具	81	99	15	16	▲ 66	▲ 83
F6	〃 情報通信・電子部品・デバイス製造	29	43	14	17	▲ 15	▲ 26
F7	〃 輸送用・精密機械器具製造	75	119	48	59	▲ 27	▲ 60
G	電気・ガス・熱供給・水道業	7	9	6	5	▲ 1	▲ 4
H	情報通信業	31	44	14	15	▲ 17	▲ 29
I	運輸業	43	71	23	31	▲ 20	▲ 40
J	卸売・小売業	101	130	44	53	▲ 57	▲ 77
K	金融・保険業	2	3	0	0	▲ 2	▲ 3
L	不動産業	7	10	5	6	▲ 2	▲ 4
M	飲食店・宿泊業	78	115	10	17	▲ 68	▲ 98
N	医療・福祉	20	29	11	15	▲ 9	▲ 14
O	教育・学習支援業	1	2	31	43	30	41
P	複合サービス業(郵便局・協同組合)	2	2	13	18	11	16
Q	専門サービス業	144	187	70	83	▲ 74	▲ 104
		981	1332	542	676	▲ 439	▲ 656

2 「地域産業の担い手プロジェクト（ものづくり分野）」の実践報告（埼玉県）

- ・目的 工業高校と地域産業界が連携し、地域のものづくり等の地域産業の担い手を育成するための取組を実施する。
- ・研究指定校 4校（県立大宮工業高校 県立川口工業高校 県立狭山工業高校 県立熊谷工業高校）
- ・熊谷地域推進協議会（地元企業＋熊谷市商工会議所＋熊谷工業高校）

1 生徒の現場実習（見学以外）

(1) インターンシップ

対象・日程 第1学年全員 264名・平成22年1月26日～29日（4日間）

受入先：熊谷市内及び県北部の協力企業 118社



(2) 熊工版「デュアルシステム」（継続型）

対象・日程 建築科（1名） 平成21年6月3日～平成22年1月21日（21回）

受入先：清水昭治設計事務所

情報技術科（2名） 平成21年6月3日～平成22年1月21日（21回）

受入先：(株) シード



ものづくり大学（平成21年度）

(3) 熊工版「デュアルシステム」（集中型）

対象・日程 建築科（1名） 平成21年7月21日～平成21年8月27日（29日間）

受入先：白根工務店



## 2 生徒の現場実習（見学）

	実施日	場所	学科	学年	人数	備考
キャリア探索 プログラム	11/18	NEC埼玉	建築	2	36	進路行事
〃	11/12	大正製薬(株)・ココロ	電気	3	39	〃
工場見学	6/5	品川火力発電所	電気	2	39	学校行事
〃	6/5	富津火力発電所	電気	3	39	〃
〃	6/5	富士重工・東京三洋	機械	3	62	〃
〃	6/5	羽田飛行場・トヨタカレッジ	機械	2	76	〃
〃	6/5	パナソニックセンター東京	情報	2	75	〃
〃	6/5	富士重工・大塚製薬	情報	3	80	〃

## 3 技術者等による学校での実践指導

	実施日	期間	企業名・講師名	学科	学年	人数	備考
実践教育導入 事業	H21/1/13 ～1/20	6	守屋工務店	建築	2	37	建築実習
〃	H21/1/20	1	東京電力(株)熊谷支店	電気	2	40	なし
スペシャリスト	5/23	1	日産ディーゼル工業	情報	3	2	県事業
〃	6/23	1	アルスコンピュータ専門学校	情報	3	80	〃
〃	9/30	1	(株)ケジ・エム・(株)交通建設	土木	3	30	〃
〃	10/9	1	藤原設計事務所	建築	1	41	〃
〃	10/30	1	富士教育訓練センター	土木	2	36	〃
〃	H21/2/20	1	鯨井工務店	建築	2	37	〃
〃	H21/2/20	1	埼玉工業大学	情報	2	75	〃



高度熟練技能者による実践指導（守屋工務店）



技能検定3級（旋盤）

#### 4 教員の高度技術習得

	実施日	期間	企業名・講師名	学科		人数	備考
教員研修	4/26. 6/28	2	ET ロボコン技術研修会（新宿）	情報	職員	2	
〃	7/23	3	小松製作所（小山）	機械	職員	1	
〃	7/30	1	NEC エレクトロクスデバイス製品別セミナー	情報	職員	1	
〃	8/18～28	7	シスコム（熊谷）	情報	職員	1	
〃	11/4	1	パナソニック情報配線施工技能（佐倉）	情報	職員	3	
〃	12/26	1	情報配線施工技能（川口）	情報	職員	1	

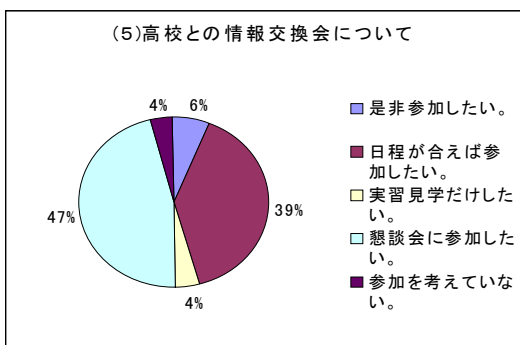
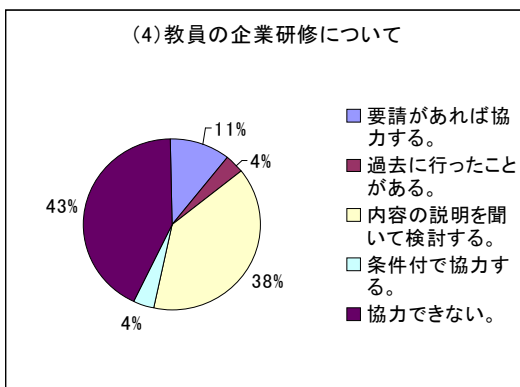
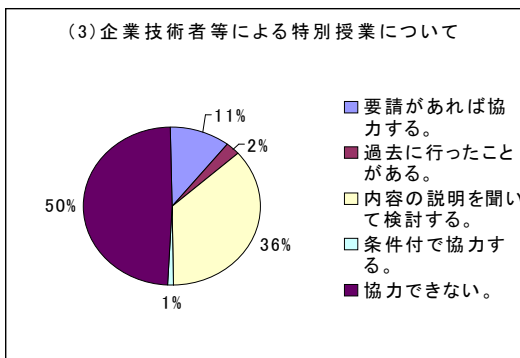
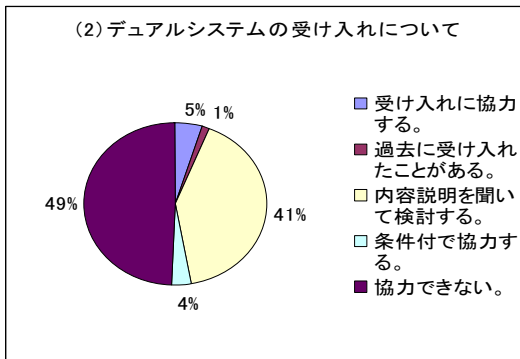
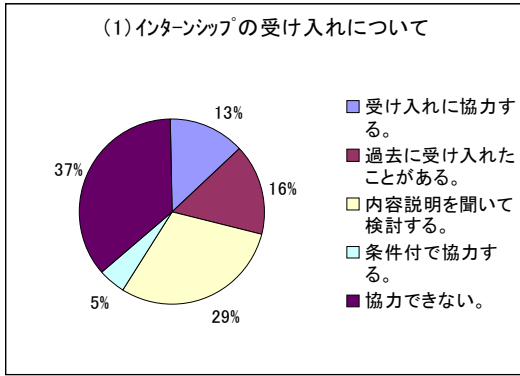
#### 5 その他の活動

	実施日	期間	企業名・講師名	学科		人数	備考
出前授業	9/19	1	鴻巣市立鴻巣南中学校	情報	職員	3	なし
小中学校 交流事業	4/1～ H21/3/31	3	玉井中学校・大麻生小学校	土木	3	10	課題研究
公開講座	8/6～8/8	3	市内小・中学生親子	情報	職員	3	なし
小学生ロボット 教室	10/11	1	市内小学生	情報	職員	14	〃
地域座談会	11/1	1	松坂屋建材(株)・日本オイルソープ	全	保護者	15	〃
熊谷産業祭 参加	11/22～23	2	熊谷スポーツ文化公園	情報	全	21	課題研究
企業見学会	H21/3/2	1	太平洋セメント(株)・リンテック(株)	全	生徒 保護	12	〃



座談会・中学生体験入学・小学生ロボット教室・中学生プログラム教室





### 3 アンケート結果

#### 1 企業に対するアンケート（協力企業 84 社）

##### (1) インターンシップの受け入れについて？

- ① 受け入れに協力する。11 社 13%
- ② 過去に受け入れた。13 社 16%
- ③ 説明を聞いて検討。24 社 29%
- ④ 条件付で協力。4 社 5%
- ⑤ 協力できない。30 社 37%

##### (2) デュアルシステムの受け入れについて？

- ① 受け入れに協力する。4 社 5%
- ② 過去に受け入れた。1 社 1%
- ③ 説明を聞いて検討。32 社 41%
- ④ 条件付で協力。3 社 4%
- ⑤ 協力できない。39 社 48%

##### (3) 企業技術者等による特別授業について？

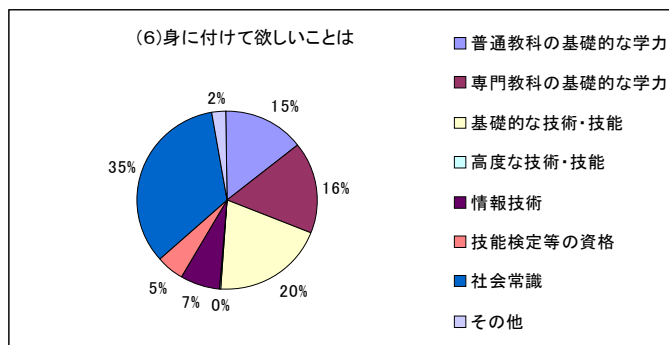
- ① 要請があれば協力する。9 社 11%
- ② 過去に行った。2 社 2%
- ③ 説明を聞いて検討。29 社 36%
- ④ 条件付で協力。1 社 1%
- ⑤ 協力できない。40 社 50%

##### (4) 教員の企業研修は？

- ① 要請があれば協力する。9 社 11%
- ② 過去に行った。3 社 4%
- ③ 説明を聞いて検討。31 社 38%
- ④ 条件付で協力。3 社 4%
- ⑤ 協力できない。35 社 43%

##### (5) 高校との情報交換会については？

- ① 参加したい。5 社 6%
- ② 日程が合えば参加したい。31 社 39%
- ③ 見学だけ参加したい。3 社 4%
- ④ 参加を考えていない。37 社 47%
- ⑤ その他。3 社 4%



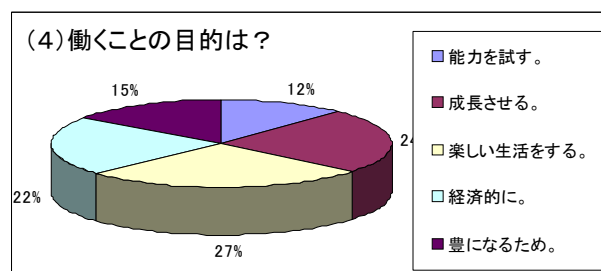
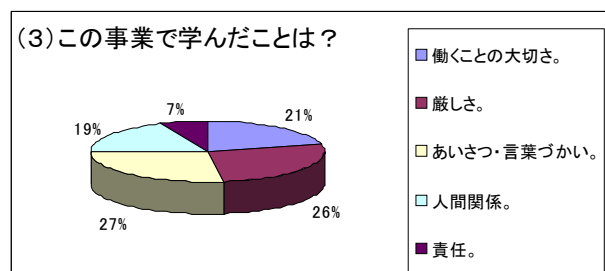
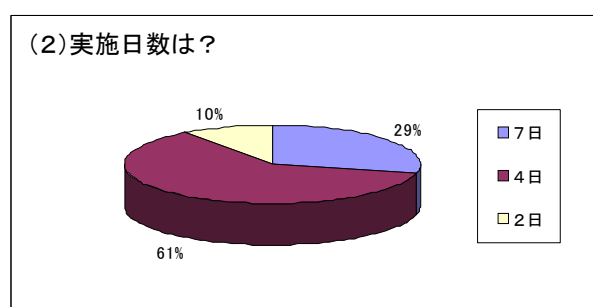
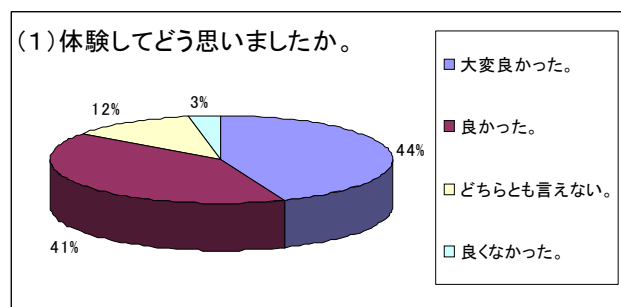
(6) 高校生に身に付けて欲しいことは？

- ① 普通教科の基礎的な学力。30社 15%
- ② 専門教科の基礎的な学力。33社 16%
- ③ 基礎的な技術・技能。40社 20%
- ④ 高度な技術・技能。1社 0%
- ⑤ 情報の技術。14社 7%
- ⑥ 技能検定等の資格。10社 5%
- ⑦ 社会常識。70社 35%
- ⑧ その他。5社 2%

## 2 企業からのご意見

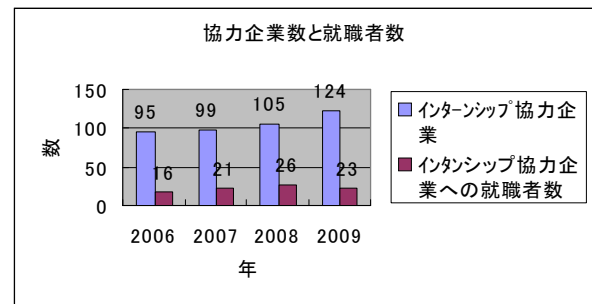
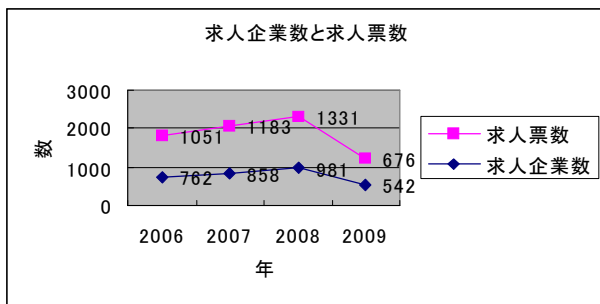
- ① 現場見学、インターンシップ等を積極的に行い、学生の意識の向上を図るのは、大変理解できますが、通勤時の交通災害、工事現場における事故に対するリスクの管理、発生する費用（通勤費・実習に対する報酬）の負担等、学校と企業の間で発生しうる問題について、ルール作りをしていただくと、こうした活動の理解と進捗度合いも早まるのではないのでしょうか。
- ② 制度を有効活用できるのは、ある程度ゆとりのある企業でないと無理です。人材、諸経費、時間等を切り詰めた体制である当社にとって、インターンシップ受け入れは容易ではありません。ただ、若い労働力を確保する上での期待は大きい。
- ③ やはり当社のような中小企業に、新卒者は一度も入社したことがありません。こちらでも社員教育の仕方がわからない面もあります。若者が、何を求めているか、これからの仕事に何を期待するのか、知りたいと思いました。
- ④ 数年間、工業高校卒業生を採用したが、2～3年で仕事を覚えたころに退職してしまう若者が多い。

## 3 生徒に対するアンケート



4 まとめ

1 インターンシップ協力企業と就職者の関係



	2006	2007	2008	2009
求人企業数	762	858	981	542
求人票数	1051	1183	1331	676
就職者数	88	110	111	88
協力企業	95	99	105	124
協力企業への就職者数	16	21	26	23

2 熊工版「デュアルシステム」体験後の進路

	継続型		集中型	参加生徒数		
	建築：設計事務所	情報技術：関連企業	建築科：大工	継続型	集中型	計
09	東洋大学	日本工業大学 日本工業大学	県立熊谷高等技術専門学校	3名	1名	4名
08	城西大学	日本工業大学	白根工務店（縁故） サンオキ キャノン電子	2名	3名	5名
07	日本工業大学		新井工務店（縁故） 県立熊谷高等技術専門学校	1名	2名	3名
06	日本工業大学 東洋大学 日本大学 ものづくり大学 (株)鹿島クレス			5名		5名
計	8名	3名	6名	11名	6名	17名

5 終わりに

- ・ インターンシップ、熊工版「デュアルシステム」を実施する上での問題点？
- ・ インターンシップ、熊工版「デュアルシステム」を実施する上での良い点？
- ・ インターンシップは進路選択の助けになりますか？
- ・ 高度熟練技能者等による実践指導の導入するためには？
- ・ 専門高校における地域連携とは？